平成１４年度「川崎地区」豊かな体験活動

神奈川県川崎市立宮崎中学校

１　取組みのねらい

本校の地域的な特色として、「宮前メロン」(学校所在地が川崎市宮前区)を代表作とする農家が多く、その方々には普段の教育活動においても多大なご協力をいただいている。本事業の趣旨にも理解を示して下さることが期待できるため、地域交流を兼ね、１学年において勤労生産的な体験学習を種まきから収穫まで継続的に実施したい。また、体験活動後、農業にかかわらず様々な分野を体験しようとする意欲が育まれ、地域交流も活性化されることを期待したい。

２　教育課程上の位置付け

本校では総合的な学習の時間に全学年とも体験活動を組み込んでいる。その時数は１学年１５単位時間(３日分)・２学年６単位時間・３学年１３単位時間としている。

本事業の対象として、１学年では次のように教育課程に位置付けている。

ア	福祉体験バリアフリー疑似体験（５／８・２２、６／５）	４単位時間
イ	福祉体験創作・施設訪問（９・１０月の総合と１２月）	９単位時間
ウ	国際交流（１０／２３）	２単位時間
エ	農業体験（６／１８、７／８、９／８，１１／８）	２０単位時間

３　活動の概要

活動学年：１学年在籍生徒　２６７名(７クラス)

上記２のアイウについては、総合的な学習の時間に体験活動として、これまでの２年間の実績を生かして十分内容を検討し年間計画に繰り込まれていた。しかし、エの農業体験は十分な検討ができないまま計画し、本年度の活動が始まった。

ここでは、農業体験を実施するまでの取組みを紹介する。

(1)　体験活動場所の選定

①　５月２日に支援委員会を開催した。

② 5月8日、市教育委員会に相談したところ、「社団法人中央酪農会議」を紹介していただき、「酪農教育ファーム推進委員会」の協力によって、いくつかの牧場の紹介を受けた。以後、数日間現地との交渉にあたった。

③ 5月23日、市教育委員会から「川崎市農業振興センター」を紹介して頂き、協力をお願いすることとした。

④ 6月10日、現地農家と交渉を行う。

(2) 農業体験の実施

① 作物は時期の関係から「さつまいも」を選択することとなった。

② 休耕地を借り受ける形にしないで営利農場を使う形とする。

③ 体験日は学校側の事情を理解していただき、収穫までの4回とも実施日を決めさせていただいた。

④ 避難場所を農地の近くに確保していただいた。

⑤ 学年全員の同一行動としたが、現地では学年を半分に分け、農作業と散策・写生に分け、ローテーションを組んだ。

⑥ 交通費に関しては受益者負担とした。

(3) 活動の様子

① 苗植え－6／18

曇り空の中、出発したが現地は大雨となり待機をして様子を見たが、雨はやむ気配がないことから、生徒代表が数本の植えつけをして帰校することとなった。

後日、各クラスの代表の生徒によって全ての植えつけを行った。

② 草取り－７／８

夏の太陽が照りつける中、生徒は真っ赤な顔で草取りを行った。一足先に日焼け顔となったが作業は無事終了する。

③ 夏休みに現地から電話連絡

「次の草取りの予定日９月６日まで待てない。草が伸びてサツマイモが育たなくなってしまう。」との連絡があり、生徒の代表者を集め予定外ではあったが夏休み中に草取りを行った。

④ 草取り－９／６

この日は朝から雨のため延期としたが、予備日の９月９日も曇り空であったため今回は中止とし後日、再度、代表者によって草取りを行った。

⑤ 収穫 －１１／８

寒くもなく、暑くもなく絶好の日和の中で収穫をすることができた。生徒は両手にさつまいも満載のビニール袋の大収穫。この日は班ごとに集合、解散とする方法としたが、事故もなく終了することができた。

(4) 生徒の声

・ 芋を掘る時も腰が痛くなったりして、農作業を仕事としている人は大変だなあと思いました。いつも何気なく食べている野菜も農家の皆さんの汗の結晶だから大切に食べようと思います。

・ 最初はお金をかけて行くならお店で買った方がいいと思ったけれど、やっぱり畑に行って自分で取ってみることで、自然のことについて考えさせられることがありました。

・　つるをどかしたり、芋を掘る以前の作業でいも掘りの大変さを知りました。虫がいることをおばあちゃんに聞いたら、それは土が良い証拠だと教えてくれました。

・　水やりや雑草取りをして一生懸命育てている人はすごいと思いました。気候などでも育ち方が変わるし､農業をやっている人はいろいろ工夫をしていると思います。

4　学校支援委員会組織

(1)　校内推進体制

教員１４名で構成する既存の「総合的な学習の時間推進委員会」を活用し、校内体制の組織としている。

(2)　学校支援委員会

次のメンバーで構成している。

１．地域代表(社会福祉協議会会長)
２．自営(農業)元PTA会長
３．自営(農業)元PTA会長
４．自営(農業)元PTA会長
５．自治会代表(町内会長)
６．地域企業代表(現PTA会長)
７．保護者代表(現PTA副会長)
８．川崎市青少年の家指導主事
９．本校校長
10.　〃　教頭
11.　〃　総務部主任
12.　〃　１学年主任

5　活動の成果と課題

農作業はまさに天候次第という現実を感じながらも、生徒は農業を通して様々な経験をすることができ、他の活動に生かすことができた。

また、実施上の課題としては、学校事情や天候の状況に応じて、臨機応変に対応できるよう、徒歩でいつでも行ける近隣の場所に、無償に近い形で借用できる休耕地があることが望まれる。